

## 会 議 録

会議の名称	令和7年度 第3回 所沢市いじめ問題対策委員会
開催日	令和7年 11月4日(火) 13時30分から15時00分
開催場所	所沢市役所高層棟6階 604会議室
出席者の氏名	赤堀 侃司・及川 みさ子・桂川 泰典・神田 信彦・木村 幸子 古山 智啓・高田 美智子・武弓 清貴・美甘 寿規・山崎 雄一郎
欠席者の氏名	小林 治
議 題	3 協議及び報告 【公開】 (1) 令和7年度第1回生徒指導に関する調査結果について (2) いじめ未然防止プログラムの進捗状況について 【非公開】 (3) 市内学校の状況について
会議資料	・次第 ・資料1 協議及び報告(1) 令和7年度第1回生徒指導に関する調査結果について ・資料2 協議及び報告(2) いじめ未然防止プログラムの進捗状況について 【非公開】 ・資料3 協議及び報告(3) 市内学校の状況について
担当部課名	教育委員会 教育長 岩間 健一 学校教育部 部 長 中田 利明 学校教育課 担当参事兼課長 伊東 真吾 主幹兼健やか輝き支援室長 刈谷 和哉 指導主事 今井 知博 指導主事 宮岡 修平 指導主事 佐瀬 孝太郎 指導主事 小松 大祐 心理士 島 吉孝 学校経営アドバイザー 田中 和貴 学校経営アドバイザー 川音 孝夫 学校経営アドバイザー 横須賀 邦子 生徒指導・いじめ問題対策員 伊勢 浩明 生徒指導・いじめ問題対策員 末竹 眞智子 教育センター 担当参事兼所長 大庭 真紀子 主幹兼教育相談室長 加藤 法祥 主幹兼指導主事 岡田 香代 —連絡先— 学校教育課 04-2998-9238 教育センター 04-2923-2396

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局  教育長  委員長    事務局  事務局	<p><b>【公開】</b></p> <p>1 開会</p> <p>2 教育長挨拶 所沢市教育委員会・岩間健一教育長が挨拶を述べた。</p> <p>3 協議及び報告 条例第6条に基づき、対策委員会の会議は委員の過半数の出席により成立した。</p> <p>本会議は、個人に関する情報が含まれており、所沢市情報公開条例第25条2号に基づき、協議及び報告事項のうち（3）については、非公開にしたい旨の発議があり、出席委員全員が賛成し、協議及び報告事項のうち（3）は非公開で審議されることに決定した。</p> <p>傍聴者なし</p> <p>議事録の確定方法は、委員長の承認により確定することを確認した。</p>
事務局	<p><b>【公開】</b></p> <p>（1）令和7年度第1回生徒指導に関する調査結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1に沿って説明。</li> <li>・暴力行為の発生件数は、昨年度と比較して減少傾向。</li> <li>・当該児童生徒等が再び暴力行為に及ぶことがないように、暴力行為の背景を捉えた指導や、認め、励ます声かけなど継続的なケアが大切だと考えている。</li> <li>・いじめの認知件数について、小・中学校ともに増加傾向。</li> <li>・いじめの定義や積極的な認知への理解が広がったこと、アンケートや相談活動の充実による見取りの精緻化、そしてSNSなどのネット上のいじめの積極的な認知が進んだことの結果と考えている。</li> <li>・本市の令和6年度はいじめの様態について、「冷やかしかからかい、陰口、脅しなど、嫌なことを言われる」ことが小学校、中学校で最も多い値となっている。</li> <li>・いじめ未然防止プログラムによっても、こどもたち自身の力で解決できるものを増やしていければと考えている。</li> <li>・いじめの解消について説明。</li> <li>・毎月の生徒指導の状況報告において、経過を把握し、各学校に連絡を取りながら、確実な解消に向けて取り組みや見届けを続けていく。</li> <li>・長期欠席者について説明。</li> <li>・不登校については、小学校では微増、中学校では減少となっている。</li> <li>・不登校の児童生徒への支援として、別室登校や放課後登校など、一人一人に合った支援を組織的に講じるとともに、定期的な電話連絡、家庭訪問、面談など、新たな不登校を生まないように、早期発見、早期対応に努めている。</li> <li>・不登校児童生徒への学校の対応状況について、出欠状況や家族構成、本人や家族の</li> </ul>

	<p>願いや教師の対応などを記した「児童生徒理解支援シート」を活用し、アセスメントを行って、個に応じた様々な支援を行っている。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的には割と悪い方向へデータの推移が見られるところで、本市においては比較的落ち着いた数値になっていると受け止めている。それは、教育長のお話の中にも出てきたように、本市における現場での取り組みの積み上げというところが一つ結果に結びついていると感じている。</li> <li>・今回のこのデータは、学校に対してプラスに働くデータとしても活用ができるのではないかと。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常にありがたいご意見であり、どういう形で各学校から保護者に周知ができるかというのを考えながら、各学校に支援をしていきたいと考える。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2点聞きたい。1点目、ここでは全体数が表示されているが、男女でどのような違いがあるか。2点目、所沢市では、どういうタイプの不登校が見られるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、男女別の割合については、調査で求められていないこともあり、正確な数値は把握していない。</li> <li>・不登校のタイプについて、昨年度の状況になるが、教育センターへの相談の中で、友人関係、それから児童生徒の性格や行動に関するもの、また、学業に関するものを理由とした不登校の児童生徒が見られた。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の傾向を見ても、不登校は増えており、不登校をどうするのかの問題はすごく大きいのではないかと。</li> <li>・この不登校は解消しているのかどうか。どのくらい学校に通えるようになったのか、分かる範囲でいいので教えていただけるとありがたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年、教育支援センターに通っている94名の児童生徒の中には、学校につながることでできた児童生徒や外部機関につながることでできた児童生徒がいるように状態が良くなった児童生徒が、全体で16%だったのが33%になった。また、社会的な関わりがない児童生徒が、10%だったのが5%になり、多くの児童生徒が社会的な関わりができるようになった。</li> <li>・校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム）の取組について説明した。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の場合、長期欠席のまま卒業するような方がいれば、どのように対応しているのか。また、例えば専門的な機関との連携であるとか、教員の皆さんの研修であるとか、そういった取り組みについて教えてほしい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の方も粘り強く保護者とも連携しながら、卒業式に向けて目標立てて取り組んでいる。学習保障を進め、進路指導も行って次のステージにつながるようにしている。</li> <li>・教育センターで行っているトコロんカフェ「紡ぎ」について説明。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私は学校に直面で来るということの意味、大きな人間形成に関わると思う。その根本の議論をしないと、非常に難しい問題になる気がする。学校に背を向けたこどもたちには、何か根本的な原因があるのではないか。そこを真剣に議論して、学校に来て良かったとこどもも思わないといけない。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会全体が「学校に行くべき」という、ハードルが非常に低くなっている。欠席をすることへのハードルが極めて低くなっている状況が指摘をされていると感じている。</li> <li>・学校教育のあり方について、突きつけられた大きな課題ではないのかと考えている。委員ご指摘のとおり、本当に見直すべきところを見直さないと根本的な解決に至らない。一方で、多様性の時代と言われ、様々な選択肢がある中で、学校とは何なのか、こどもたちに対して、学校に来る魅力や必要性を伝えていくことは本当に大事なことである。教育委員会では、学校も考えていかないといけないという思いを強く持っている。</li> </ul>
事務局	<p>(2) いじめ未然防止プログラムの進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ未然防止プログラムの進捗状況について資料2に沿って説明。</li> <li>・こどもたちの実態把握アンケート調査の結果から、いじめの加害側と被害側に事案に対する認識に差があること、自分がどう考えてその行為をしたかという基準で、いじめを判断している可能性が高い。</li> <li>・いじめについて具体例を挙げて知識を学ぶ必要がある。</li> <li>・いじめかどうかを受けたと感じたときに、どのように対処すればよいかについて、多くのこどもたちが、家族など身近な大人に相談すると回答。</li> <li>・改めて頼りになる大人の存在が、こどもたちにとって必要であり、こどもたちが身近な大人に頼ることができるよう、教職員への研修や家庭への呼びかけなどが必要である。</li> <li>・家庭用いじめ防止リーフレットについて資料を基に説明。</li> <li>・学校と家庭の連携という面でも課題があると捉えている。</li> <li>・いじめの行動の項目で、観衆や傍観者をいかに仲裁者や相談者に育てていくかが大切であることを明記した。</li> <li>・「家庭でできること」では、児童生徒の様子の変化を家庭でも素早くキャッチし、家庭が学校に相談をするきっかけとなるような内容とした。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結局いじめというのは、やられた本人が嫌だと思った時点でいじめであり、それはもう間違いないことだと思う。法におけるいじめの定義を理解しないといじめているつもりはないという言葉が出てきたりすることがあると感じた。</li> <li>・このリーフレットに関して、保護者だけでなく地域の方々にも見てもらえたらいいかと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状は、まず学校に配布し、学校の教職員が理解をして、懇談会等で保護者にこのリーフレットを用いて啓発を進めていく計画であり、ご意見いただいたように、地</li> </ul>

	域を巻き込んでいくということは大切だと感じている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明会等を合わせて開催しながら、この中身の説明もしていくことが大事なのかと考える。加害者になることもあり得るということも含めて伝えていただければよいのかと思う。</li> <li>・合わせて、先ほどのデータも、そういう機会に紹介ができるようであれば、説明するのが有効なのではないか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市いじめ防止基本方針の 11 ページに、保護者の役割という項目があり、私はこれを絶対入れるべきだと思う。</li> <li>・我が子に目を向けてあるいは家族ってなんだっていうことに目を向けていくことなど家庭教育によって、いじめ問題の解消の一助になるのではないかという気持ちがある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談する相手について、家族が 50%、友達が 37%、学校の先生は 10%であり、子どもにとって先生はまだ垣根が高いという感じなのか。本当に困ったことがあったら、学校の先生に自分の本心が言えれば、かなり解決するのではないかと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まず誰に相談しますか」という質問項目なので、家族に相談できることや身近な友達がいることは、悪いことではないと捉えている。いじめ防止リーフレットには、保護者の方には「学校にぜひ相談してください」と示しているので、いじめが起きたときに、「この様に解決していく」というのを知らせる必要はあると考える。最初の相談先が教員ではないということも考えられる一方で、相談することで下手な対応をしてしまうことが教員にあるのではないかという印象も受ける。どちらもあるかもしれないと想定しながら、このデータは受け止めていきたい。</li> </ul>
事務局	<p>【非公開】</p> <p>(3) 市内学校の状況について</p>
事務局	4 諸連絡
事務局	5 閉会